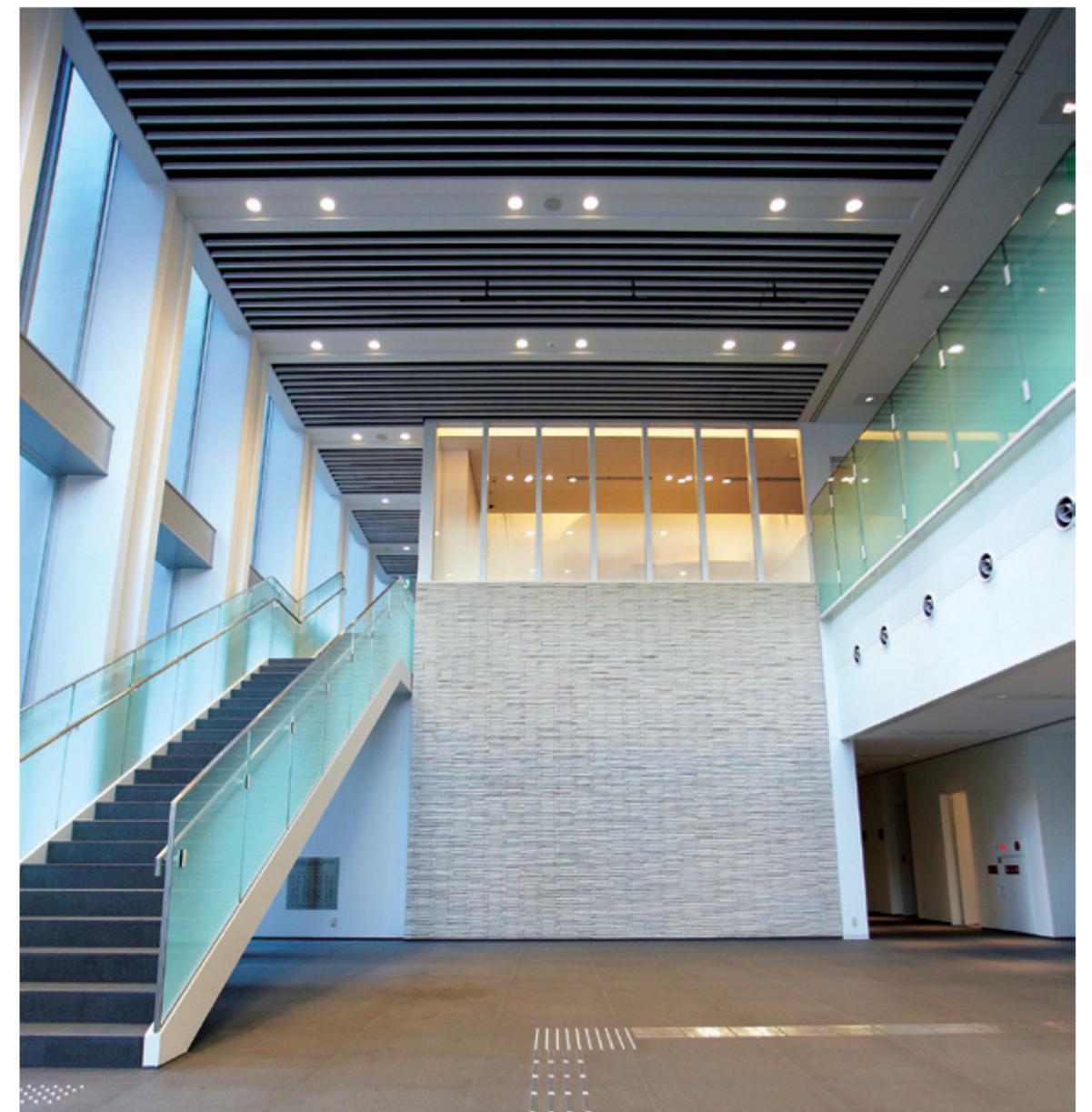




新キャンパスのシンボルともいえるオーバル(楕円)型のトップフロア。



開放感あふれる空間をさまざまな人が行き交うエントランスホール。

高層の都市型キャンパスらしい、スタイリッシュな外観デザイン。

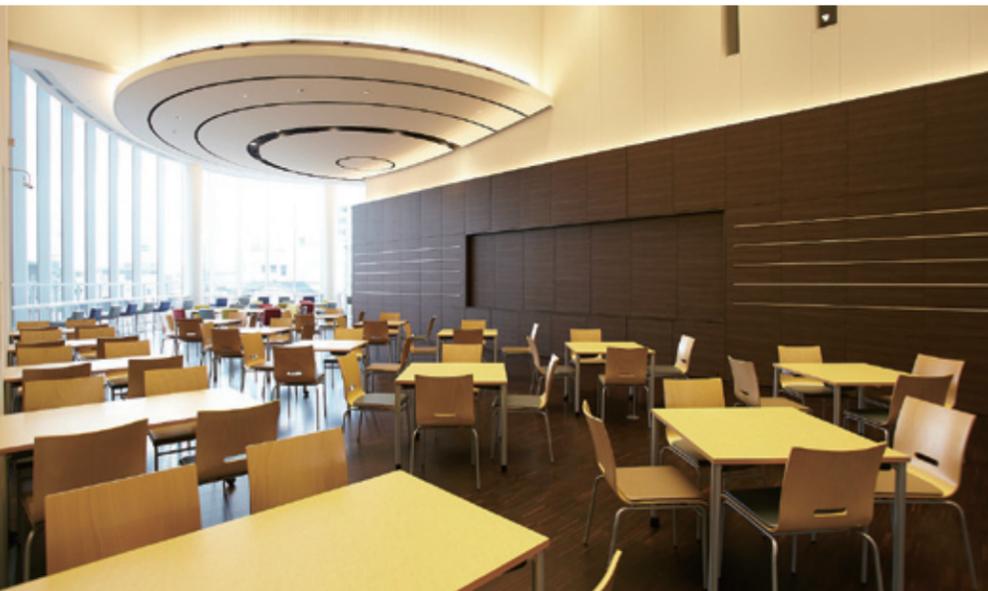
大阪経済法科大学は2011年12月、八尾駅前キャンパスを開設した。新キャンパスは行政・商業・文化の中心地である近鉄八尾駅から徒歩5分という好立地。新キャンパスは従来の花岡キャンパスとは無料の直通バス(所要時間20分)で結ばれている。学生は1年次に花岡で大学生としての基礎力を習得した後、2年次から段階的に八尾へ学びの場を移す。

地上12階建ての都市型キャンパスには、1Fに事務室、2Fに学生プラザ、3Fにキャリアセンターを置き、4Fから10Fに各種講義室・演習室、11-12Fに図書館等を備える。5Fをアクティブラーニングフロア、10Fをアドバンストラainingフロアとするなど、多様な学習空間を作り出している。

能塚正義副学長・キャリア支援部長は、開設のねらいに「キャリア教育」「社会連携による実践型教育」「ICT教育」を挙げる。

同大はすでに10年来、企業人による公開講座や商店街活性化イベントなどを通じ、地域の課題解決に向き合ってきた。とりわけ、就業力育成が義務化されたことで、地域は座学で学べない絶好の「実学の間」だと語る。キャンパスのアクセスが向上したことで、今後は市街地でのマーケティング調査

2Fには学生プラザ(写真)、カフェ、デッキテラスがあり、授業以外の時間も快適に過ごすことができる。



等、フィールドワークもより活発に行えるようになる。「アンケート一つ取るにも、コミュニケーションの大切さや難しさを、学生は身をもって学ぶことになるだろう」と能塚副学長。地域はまさに学びのフィールドなのだ。

キャリア形成には、①早期スタート、②全学生対象、③少人数、④個別指導を柱に、4年間を通してキャリア教育を行う。1年次から「大学演習」や「キャリア開発」で職業観を養い、2・3年次にはインターンシップなど実社会での体験学習とともに、「キャリア演習」と「専門演習」のWゼミで、対話型少人数教育を徹底。3年次以降は合宿形式のセミナーや、職業別、女子向けなど個別指導で就職活動をフォローする。



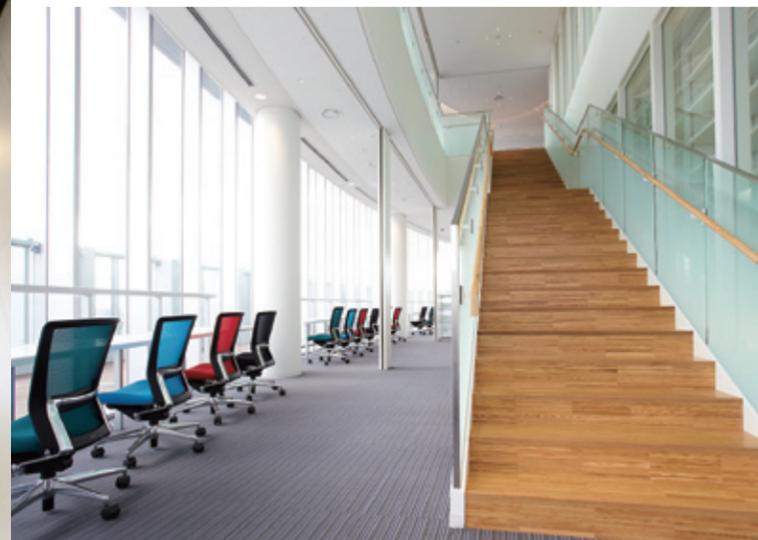
教室の集まる7Fにも、自然光の降り注ぐ「吹き抜けラウンジ」を用意。

何よりも大阪・難波といった大阪市内まですぐに行けるアクセスの良さは学生の就職活動にも大いにプラスになるはずだ。

さらに公務員・難関国家資格を目指す学生には、エクステンションセンターが開講する特修講座(Sコース)を4年間一貫・受講料無料で提供している。

新キャンパスには「アクティブラーニング教室」「プレゼンテーション教室」など、最先端のICT教育環境を整備した。全館無線LANとし、全学生にノートPCの利用を推奨、ソーシャルメディアでの就職活動など、ICTの積極活用を推進したいとしている。

(取材・文／本誌 能地泰代)



トップフロアにある図書館は、窓まわりを個人用キャレルが取り巻き、抜群の眺望だ。



シアター型の「プレゼンテーション教室」で、臨場感あふれるプレゼン体験を積む。



「アクティブラーニング教室」では、ノートPC、プロジェクター、電子黒板などを活用し、グループワークを展開する。



アドバンストラainingフロアにある「Sコース自習室」。全学生の5分の1が法曹、公務員、公認会計士・税理士など難関試験合格を目指して「Sコース」に所属。



2年次以降の専門演習を行う演習室には、すべてプロジェクター型電子黒板を設置。ゼミ生だけが常時使用できる専用のゼミ室もある。



対話型少人数教育を重視し、100人以上の大講義はしない。写真は最も大きな講義室で99人収容。